

第23回 B I R D 脳科学セミナー

Endocannabinoid system in the Neuroimmunology
～大麻が我々に何をもたらすか、もしくはドイツ研究生活の実際～

演者: 野崎 千尋 先生

Institute of Molecular Psychiatry, University of Bonn

日時: 2019年8月16日(金) 17:00～18:00

場所: 野田キャンパス 計算科学研究センター 4階会議室

1980年代末に大麻の活性成分が特異的に結合する受容体が脳内に存在することが明らかにされ、次いで2つの受容体サブタイプが同定された。CB1およびCB2受容体という名で知られるこれらの受容体はその発現箇所が全く異なることで知られている。さらにこれらの受容体には各々対応する内因性リガンドが存在し、それらリガンド群の生成酵素や分解酵素も含めて複雑に絡み合ったシグナル伝達系を構築している(エンドカンナビノイド系)。

我々はこのエンドカンナビノイド系が様々な生理現象や疾病に対してどのように関与するかを研究している。すなわち「アルツハイマー」「加齢」「慢性疼痛」「マラリア」などに対しどのようなメカニズムでどのように関与するか、特に神経系と免疫系のクロストーク(例: 神経炎症)にどのような影響を及ぼすかという点を探っている。本講演では当研究室におけるカンナビノイド研究の一端を取り上げるとともに、近年ドラスティックに変化しつつあるドイツの研究環境についても紹介する。

本セミナーは学部生、大学院生の聴講も歓迎します。

主催: 脳学際研究部門 (Brain Interdisciplinary Research Division)

(東京理科大学における脳研究の学際的な連携基盤の構築を目指し2016年度に発足。

学内の理一・工一・基礎工・理工・薬学部・生命研および学外の研究機関から構成される。)



世話人: 薬学部薬学科 山田大輔 6431

yamadada@rs.tus.ac.jp